

柔らかなココロ



「準備」

蝉の声が大きくなってきたな一と、思ったらスルッと梅雨明けが宣言された。今年の梅雨はこれでもかというほど極地的に雨が降った。ニュースでは連日、災害報道がなされ、教え子の実家には土砂が流れ込んだという情報まで飛び込んできた。

夏本番。高校生にとっては、金鷲旗・インターハイと大きな大会があり、日頃のチカラをいざ発揮する夏舞台が続く。そして秋には国体。

今年から国体が変わる。大きく変わった点は2つ。成年女子と少年女子がミックスの女子チームとなったこと、少年男子→女子→成年男子の順番で予選なしで本戦出場できること（よって成年男子もブロック国体がスタートする）。ミックス女子チームの内容は、先鋒は少年 52kg、次鋒は成年 57kg、中堅は少年 63kg、副将は少年 78kg、大将は成年無差別（ただし、成年枠のどちらかは少年が入ることも可能）。

初めてのチーム編成の為、強化の方針も手探りの中、予選会で勝ち上がった選手を中心に選考し、強化合宿を実施。チームやまぐちとしては、まずブロック国体で勝ち上がり、本戦を戦い抜く為のチームを作る。長期の展望を予測し各カテゴリーを強化していくことが、山口県の底上げ、大げさかもしれないが、日本の底上げの一端を担う…のではと、思っている。

備えあれば憂いなし、新チームになった今だからこそ、考えられる準備を行い大会に備えたい。

そして日常生活においても、それは一緒だと思う。あらゆる事態を想定し生活しなければいけない。日本に住んでいる以上、天災は人ごとではない。明日は我が身という覚悟を持ち、日頃から防災危機管理を意識しておくことが必須だと思う。そして、何か起こった時には自身の出来る支援を考え行動する。

嘉納先生の言葉にもあるように「相助相譲」を大切にしていけることがいつの時代にも求められると、改めて感じた今日この頃。

それにしても連日のうだるようなこの暑さ。みなさんご自愛くださいませ。

(近藤 優子)